

保護者の皆さんへ
家庭と学校で育む
子供の学び

学びのガイド

令和7年度 全国学力・学習状況調査 練馬区の結果から

全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に毎年行われています。

教科に関する調査では、毎年国語と算数・数学の2科目を対象としていますが、今年度は、理科の調査が追加で実施されました。また、質問紙調査では、生活習慣や学習習慣、自己肯定感等に関わる質問を通して、学習状況や学習に関する意識等が調査されています。この調査の分析結果から見えてきた課題を基に、ご家庭において知っていただきたい生活習慣等についてまとめ、掲載しました。

教科に関する調査結果について

国語

| 平均正答率(%) | 小学校 | 中学校 |
|----------|-----------|-----------|
| 練馬区 | 71 | 58 |
| 東京都(公立) | 70 | 57 |
| 全国(公立) | 66.8 | 54.3 |

算数・数学

| 平均正答率(%) | 小学校 | 中学校 |
|----------|-----------|-----------|
| 練馬区 | 65 | 55 |
| 東京都(公立) | 64 | 53 |
| 全国(公立) | 58 | 48.3 |

小学校理科

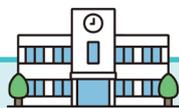
| 平均正答率(%) | 小学校 |
|----------|-----------|
| 練馬区 | 62 |
| 東京都(公立) | 60 |
| 全国(公立) | 57.1 |

中学校理科

| IRT ^(※1) スコア | 中学校 |
|-------------------------|------------|
| 練馬区 | 514 |
| 東京都(公立) | 506 |
| 全国(公立) | 503 |

(※1)今年度、中学校理科で採用されたIRTとは、国際的な学力調査(PISA、TIMSSなど)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFLなど)等で採用されているテストです。このテストを使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できます。

学校では



学校は、学習指導要領に示された資質・能力である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育むための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、日々の授業改善に取り組んでいます。

教職員は、児童生徒が、各教科の授業や様々な体験を通じて、自ら興味をもって課題に取り組み、仲間と話し合いながら考えを深め、知識を実生活に活用できるよう、支援しています。

ご家庭では



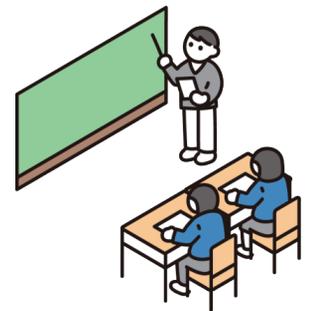
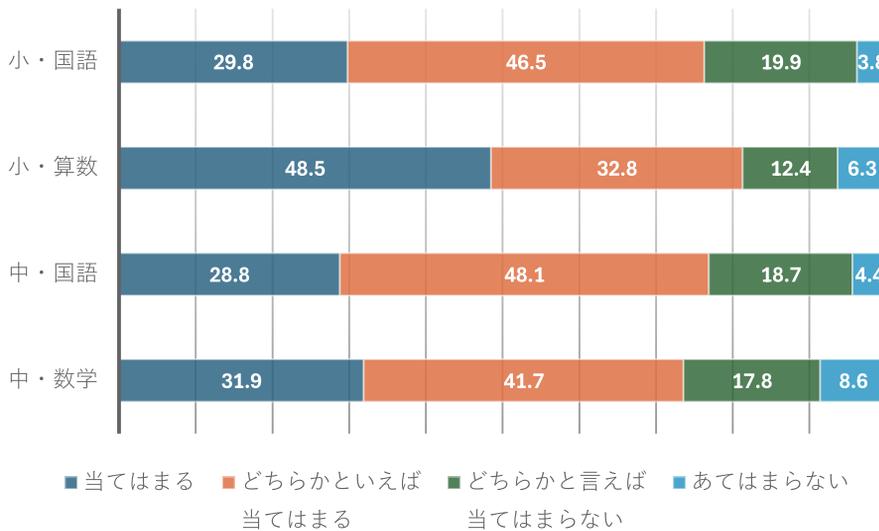
学校の取組を踏まえ、ご家庭では、学校で学んだ内容をお子様に尋ねたり、メディア等で紹介されているニュースについて、家族で話題にしてみたりしてください。それが、お子様の実生活における興味・関心につながります。

また、お子様に「どんな方法で解決できるかな」「どうしてそう考えたのかな」など声掛けをしながら、自分の言葉で説明させる機会をもつことも大切です。

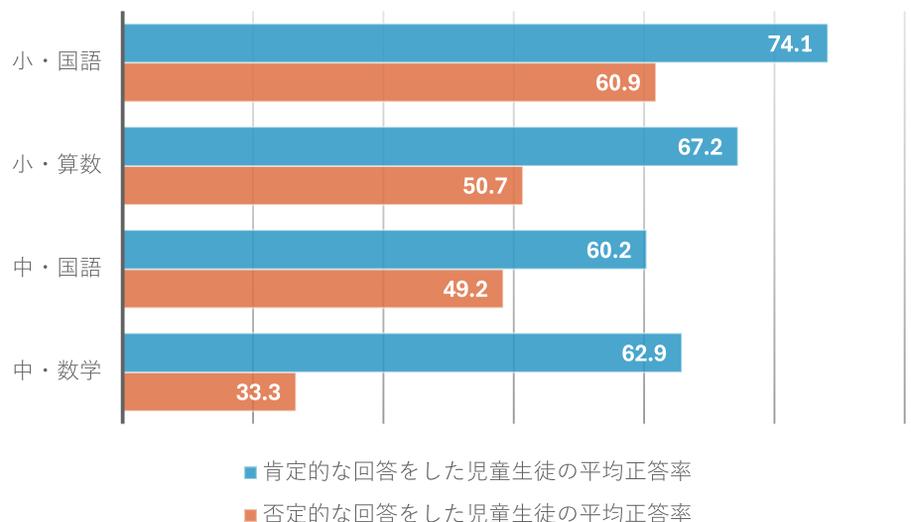
各教科の言語能力について



- 小・国語** 国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けていますか。
- 小・算数** 小数や分数の計算をするとき、工夫して計算しようとしていますか。
- 中・国語** 国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や展開に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えていますか。
- 中・数学** 文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができますか。



正答率との関連



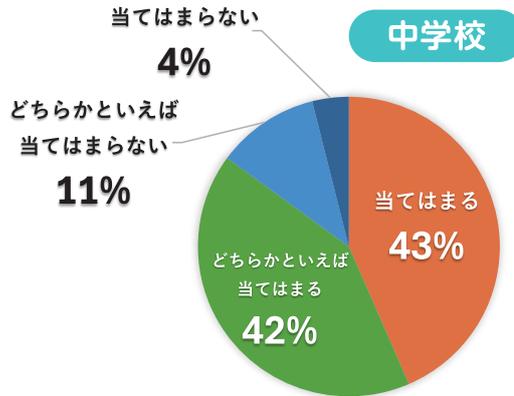
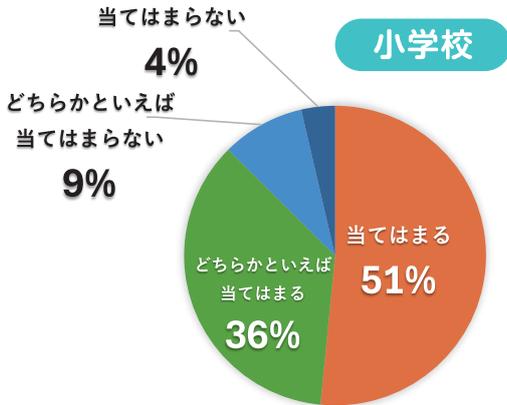
各教科では、文章を読んで理解する学習活動を実施している児童生徒ほど、各教科の正答率が高い傾向が見られます。学校では、国語科で培った能力を基本に、知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤といった言語の役割を踏まえて、言語活動を充実させる必要があります。同様に、家庭では、大人が「聞き手」となって、お子様が安心して自分の考えを表現できるような環境づくりが大切です。

ウェルビーイングについて

ウェルビーイング：身体的・精神的・社会的に良い状態であることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む包括的な概念

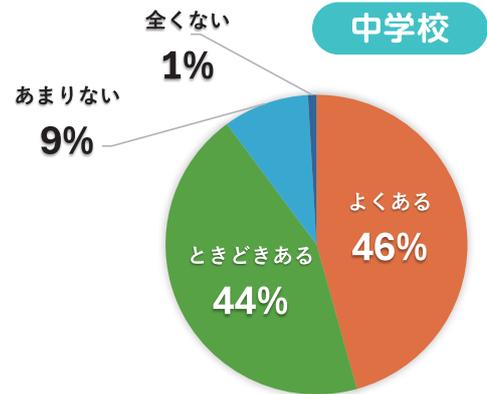
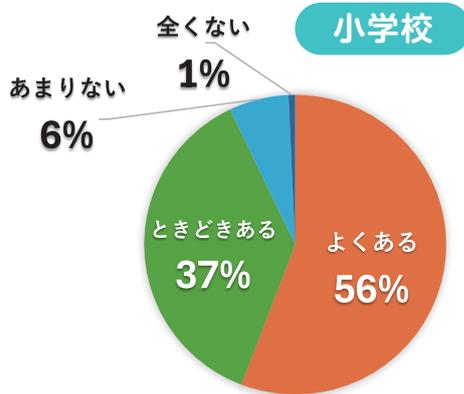
Q

自分には、よいところがありますか。



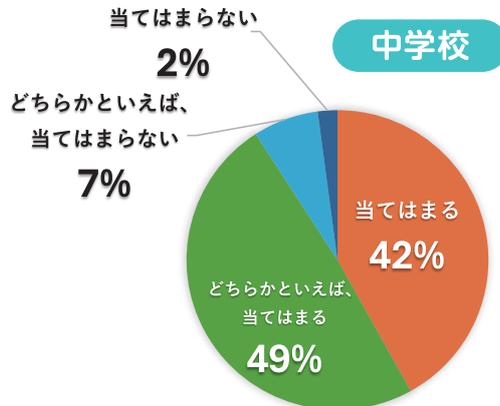
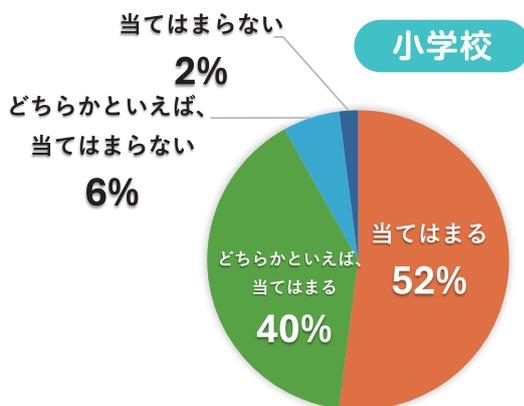
Q

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。



Q

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



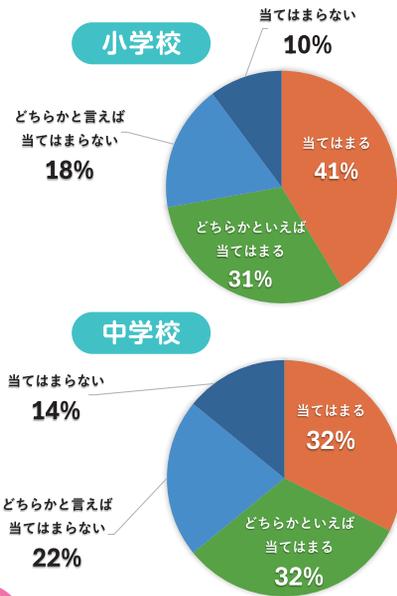
「自分には、よいところがあると思いますか。」という質問に、小学生の87%、中学生の85%が肯定的な回答をしています。また、「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。」という質問に、小学生の93%、中学生の90%が肯定的な回答をしています。

家族で、お子様の自己肯定感を高めるためには、お子様の言葉に耳を傾け、努力したことを褒めたり、失敗したことを受け入れたりすることが大切です。

読書について

Q

読書は好きですか。



正答率との関連

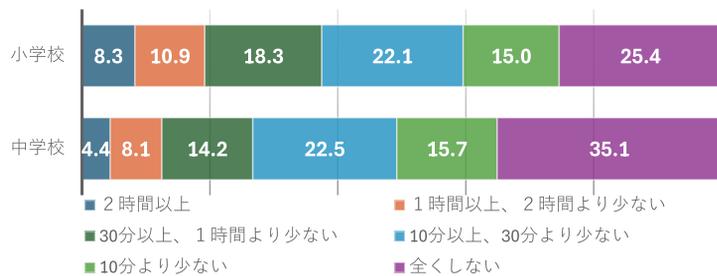


■ 肯定的な回答をした児童生徒の平均正答率
■ 否定的な回答をした児童生徒の平均正答率

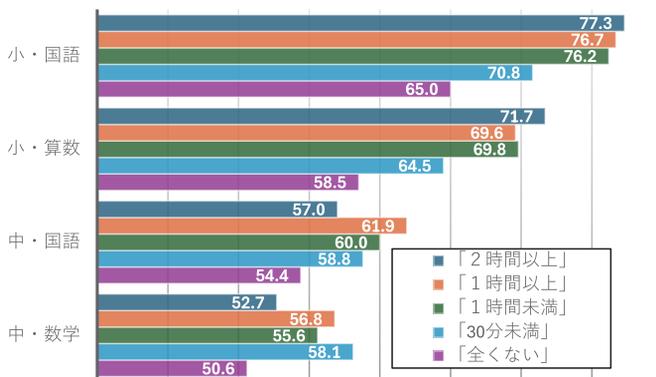


Q

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）。



正答率との関連



『読書は好きですか。』という質問については、小学生の72%、中学生の64%が肯定的な回答を示しています。

一方、平日の読書時間と各教科の正答率を見てみると、小学生では、読書時間が長い児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られます。また、中学生では、平日に読書をしている生徒の方が、読書をしていない生徒よりも正答率が高い傾向が見られます。

練馬区では、令和7年1月14日から「ねりま電子図書館」を開設しています。タブレット端末等から本を借りて、読書をするこも、本に親しむ工夫の一つといえます。

ねりま電子図書館 HP▶



児童生徒の学びのために…

本調査では、お子様のウェルビーイングや言語能力を育んだり、読書習慣等を整えたりすることが、学力の定着と関連していることが分かりました。日頃のお子様との関わりの参考にしてください。

令和8年3月発行 練馬区教育委員会 教育振興部 教育指導課
電話 (03) 5984-5759